

片野 様

今回は久須美様の保護猫ちゃんをご紹介いただき、ありがとうございました。
子猫ちゃんの状態についてご説明します。

10月21日～28日までノブ動物病院へ受診・入院されました。小田先生の治療によりほとんど改善しております。



(1) 左側の骨盤の骨折

今回の原因がおそらく交通事故と考えられます。骨盤が骨折しているため、「腰の周囲に強い衝撃を受けた」ことが示唆されます。骨だけではなく神経や筋肉、血管などにも損傷を受けていると考えられます。

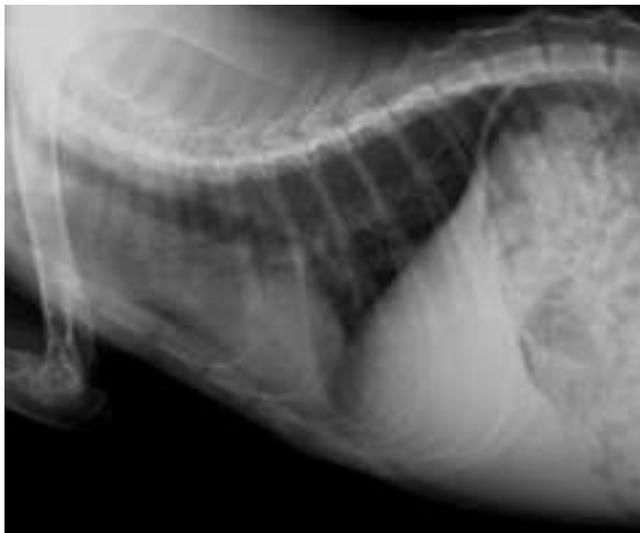
現在、尾の動きが少し悪いです。尾の神経や筋肉に少し障害があると思われます。

骨盤骨折は通常手術しないと正常位置には戻りません。骨折の程度からは一応、手術しなくても歩くことはできると思われます。骨盤骨折が癒合するまで約1ヵ月半かかりますので、安静にしましょう。

骨折部位が、骨盤と大腿骨の関節のため、常に骨同士が動いてぶつかる部位になります。骨折の手術をしない場合は、骨同士がぶつかることで慢性的な関節炎が起こり、可動範囲が狭くなるため、走ったりジャンプするのは困難になります。今後飼育するにあたり、太らないように管理してください。

赤い線で示したのが大腸の位置になります。骨盤骨折で内側にずれることで、大腸の一部が狭くなり、便が出にくくなる可能性があります。便が固くならないようにするため、食物繊維を多く含んだ食事や便軟化剤の投与が生涯必要になるかもしれません。現在、排便はできてはいます。

骨盤骨折は癒合した後になってからでは手術で正常位置に戻すことが非常に困難であるため、数ヶ月～数年後に慢性関節炎や慢性便秘になってから手術を希望されても、その時点で骨盤を手術しても関節炎は完治しません。



(2) 肺出血もしくは肺炎

レントゲン検査にて頭側の肺に出血もしくは炎症を疑う所見が認められました。

これは、「腰だけではなく胸部にも強い衝撃を受けた」ことを意味します。

現在は、呼吸は安定し、咳や痰もみられませんので、小田先生の治療で改善したものと思われます。

(3) 血液検査について (小田先生から検査データを捧様が受け取っています)

白血球が増加しているのは、打撲や骨折などにより炎症反応が起こっているからです。肝臓の値 (ALT、AST など) が高くなっています。これは「腰や胸だけではなく腹部も強い衝撃を受けた」ことを表します。肝臓だけではなく、他の臓器や血管、神経なども損傷を受けた可能性があります。ALT は肝臓細胞が破壊されたときに上昇しますので、肝臓に異常があることはまちがいありません。AST は肝臓以外に心臓や筋肉にも含まれますので、筋肉に異常が起こっても数値が高くなります。小田先生の治療により、いずれの値も良くなっていますので、今後さらに改善すると思います。元気・食欲があれば特に検査する必要はないと思いますが、左目の手術を儀希望される場合は、麻酔前に肝臓の数値を確認したほうがいいと思います。



(4) 左目について

左の眼球が萎縮して小さくなっているため、まぶたの間に隙間ができています。眼球が小さくなってしまった原因は不明です。生まれつきかもしれませんし、幼少時に怪我をしたのかもしれません。まぶたの隙間にホコリや細菌が侵入しやすいこと、まつ毛が内側に向いてチクチク刺激が続くことから、涙や目ヤニが常に出ることになります。まめに目を拭いたり、点眼薬をつけたり、まつ毛を抜く必要があります。生命に関わらない問題ですので、必ずしも手術する必要はありませんが、ご希望により眼球摘出・眼瞼縫合を行います。(急ぐ必要はないと思います)



(5) 排便と肛門について

排尿は自分でトイレでしていますが、排便は垂れ流しています。これが、骨折時にうけた腸の炎症によるものか、神経の障害によるものか、まだわかりません。今後も垂れ流しが続くものなのか、治るものなのかは、しばらく経過をみる必要があります。

ノブ動物病院では下痢だったようですので、肛門皮膚が赤く腫れていただいています。当院では、抗生剤と整腸剤と消炎剤を投与して、下痢は良くなってきました。肛門皮膚には軟膏を塗布して、炎症が治まってきています。

本日、10月29日の時点で、元気・食欲あり、排便・排尿もできています。ノブ動物病院の小田先生がほとんどの症状を改善してくれました。

あとは、安静にして、食事と内服薬を与え、目を拭いて点眼し、排尿・排便をチェックしていただければ、問題ないと思います。

ご不明な点がございましたら、いつでもお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

山の下ペットクリニック

TEL : 025-384-0600 MAIL : yamanosita.pc@gmail.com